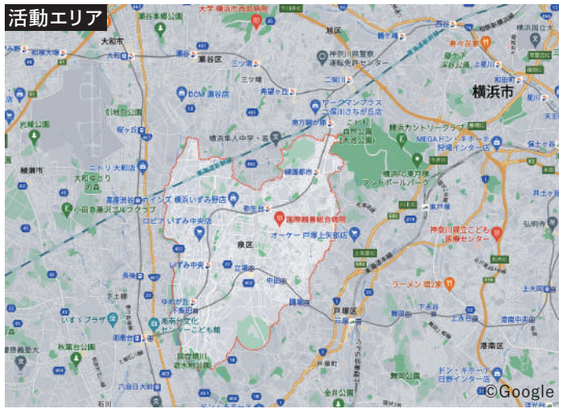
コミュニティ活動助成

一般社団法人 かけはし

神奈川県横浜市

地域で創るコミュニティカフェと社会的自立に向けた活動

多世代が集うコミュニティカフェ



団体設立経緯

小学校教員として14年間、子どもたちと全力で向き合う中で、生きづらさを抱える子どもたちにとことん寄り添いたいと考えるようになり、妻と共に教員を退職しました。

不登校の子どもたちが安心して自分らしく伸びていくことができるような居場所をつくりたいと考え、2021年4月に団体を設立。5月には一般社団法人に移行しました。横浜市泉区の公共施設を活用した居場所づくりから、取り組みを始めました。

活動概要と活動対象範囲

子どもたちが安心して過ごせる居場所、さらに社会的自立に向けた支援ができる場所として、空き家を活用した**多世代が集うコミュニティカフェ事業**を手掛けてきました。

居場所に来ている子どもたちや地域の方々、さらに地域の団体や企業も空き家改修の手伝いをしてくださるなど、数えきれない方々の協働でつくり上げることができました。空き家の付近は高齢者が多く住み、買い物難民と言われるほど生活に困っている方も多い地域です。周辺の方々の理解と協力を得ながら、共にコミュニティカフェのあり方を考え、活動を続けてきました。

コミュニティカフェを運営していく中で、不登校を経験している子どもたちや若者が様々な形で活動に関わり、彼ら自身が自己肯定感を育む場となること。また地域の方との温かな関わりや交流を通じて、社会との接点をつくること。そういった社会的自立を促す支援として、本活動を実施してきました。

活動に至った理由や背景

「かけはし」では曜日ごとに区内の公共施設を間借りして、不登校の子どもたちを受け入れてきました。活動を続けるうちに、固定の居場所としてはどうかと、1軒の空き家を紹介していただきました。そこを拠点にするべく動き出しましたが、地域との信頼関係を築かなければ続かないことは明白でした。そんな折、学校に行きづらい子を持つ親の会「ハピネス」の方が、「不登校を経験した若者が、ゆるやかに社会とつながる場として、カフェを開きたい」と声をかけてくれました。

かけはしと親の会ハピネスの協働で、一軒の空き家を活用して「子どもから大人までが緩やかにつながり、温かなかかわりが生まれる地域カフェ」をつくりたいと考えました。地域の子どもから大人までが、安心して気軽に集える場をつくること。働くことに不安を抱えている若者が、アルバイトとして働き、緩やかに社会とのつながりを築く場をつくること。そんな思いを叶えるために本活動をスタートしました。

活動内容と成果

本助成金を活用して、主に4つの事業を実施いたしました。

●コミュニティカフェの運営

総勢100名を超えるボランティアや地域の方々、地元企業の方々のお力添えをいただき、コミュニティカフェ「**かけカフェ**」を開設することができました。週4回、11時から15時半までオープンしています。

不登校を経験している若者に、カフェの手伝いを通した就労体験を呼び掛けたところ、8名が手を挙げました。この8名は、それぞれ何らかの生きづらさや働きづらさを抱えており、働くことに対して不安が強かったり、人とのコミュニケーションに困難を抱えたりしている様子がうかがい知れました。

不登校の若者も参加するカフェの運営メンバー

しかし、働くことに慣れるにつれ、だんだんとお客さんとのコミュニケーションも円滑になり、少しずつ自己肯定感を高めていく様子が見られました。大きな変化としては、遅刻や無断欠勤が減ったこと。さらにマニュアル通りではなく、一人ひとりのお客様に合わせて対応ができるようになったことでした。

1年近く経験を重ねると、「もっとおいしいドリンクをつくりたい」、「靴箱をさらに靴が置けるように改修工事をしたい」など、自分で業務を改善しようとする行動が出てきました。自ら進んで仕事を見つけ、前向きに動き出す姿には、確かな成長を感じました。

また接客が苦手だと自分自身で思っていた1人の若者は、コミュニティカフェで働くことを通して、「人と関わることがけっこう楽しいかも」と話すようになり、他のバイトにも挑戦しました。居場所としてよく利用していた不登校の中学生は、同世代の若者が働いている姿を見て興味を持ち、「私もここで働いてみたい」と意欲を示しました。こうした活動を通じて、彼ら自身が社会的自立に向かって成長し、自分自身を高めていく姿が見られたことは、大きな成果でした。

●空き家の駐車場での移動販売

横浜市下和泉地域ケアプラザや地域からの要望がきっかけとなり、「かけカフェ」の駐車場で週2回、移動販売を実施することとなりました。業種はパン販売や鮮魚店、コンビニエンスストア（ローソン）などです。

この地域は、高齢者の方々が多く住んでいます。近くに商店がなく、最寄りの鉄道駅は歩くと30分以上もかかり、手軽に買い物ができる環境ではありません。コミュニティバス「Eバス」があるものの、1時間に1回の頻度です。そんな状況を少しでも改善し、高齢者の方々が安

空き家の庭や部屋を利用して、多世代に向けて様々な企画を実践した
（上）6月に開催した「梅ジュース講座」
（中）小学生が中心になって企画した「レモネードスタンド」
（下）写真・カメラ講座

心して買い物ができるようにと、下和泉地域ケアプラザと地域の自治会などが話し合ってきました。始めた当初は移動スーパーだけでしたが、鮮魚店やパン販売店が移動販売に来るようになり、月に1度は、コンビニもやって来るようになりました。出店が増えるにつれ、買い物に来る地域の方もだんだんと増えてきました。

かけカフェへの認知も少しずつ浸透しはじめ、掲示板を見てイベントの情報を気にしたり、声をかけられる機会が増えました。何より、買い物の様子を通して、一人ひとりが抱える生活の状況が見えてきたのが意外な成果でした。

例えば、一度にものすごい量を買い溜める行為からは、他の場所には買い物に行く機会がないことがうかがえます。また足の不自由な方や独居の高齢者の方などとも、だんだんと顔見知りになり、挨拶を交わすような間柄になってきます。「困ったときは頼るからね」と笑顔で言ってくださるなど、地域の方との関係が少しずつ構築されていくきっかけになっていたと思います。

●空き家の部屋を活用したワークショップの開催

これまで様々なワークショップを開催しました。子どもから高齢者まで、幅広い世代に向けたワークショップを開催することが、コミュニティカフェを「多世代の居場所」へと成長させていくことにつながります。

数あるイベントや講座の中でも、健康講座は好評でした。参加者からは、「体操はやったことがあるが、体のつくりまで教えてくれて、どのように動かせばいいのかが分かった」など、満足感を伝える声をいただきました。また血圧を測ったり、筋力アップの体操をしたりと、健康に過ごしたいというニーズに応えることができたことはよかったと感じています。

11月の「にじいろフェスティバル」は横浜泉ロータリークラブと共催するなど、地域にある奉仕団体からも様々なご協力をいただきました。たくさんの方にご参加いただき、少なからず地域活性化につながったように思います。

【開催した講座】

2022年6月「梅ジュース講座」
参加者13名：小学生から大人まで幅広い世代が参加

7月「絵の講座」
参加者7名：小中学生

7月「パステルアート講座」
参加者4名：大人

9月「健康講座」参加者4名：高齢者

9月～12月「絵本講座」参加者2名～4名：小さいお子さんと親

11月「にじいろフェスティバル」
来場者50名以上：子どもから大人まで多世代

12月「レモネードスタンド」
来場者およそ50名：小学生が中心となって企画した、小児がんで苦しむ子どもを支援する寄付活動。5000円以上の寄付が集まりました

23年1月「写真・カメラ講座」
参加者6名：小中学生と大人

●地域活動・防災拠点としての機能

コミュニティカフェの開始に当たって一番重要視したことは、地域との信頼関係の構築でした。私たちは挨拶からはじめ、まず顔見知りになることを心掛けました。

カフェをオープンした後は、地域活動に積極的に参加しました。かけカフェに常設したスタンドパイプ式の消火栓を使って防災訓練を実施したり、地域の清掃活動にもこまめに顔を出したりしています。そういったことがきっかけになり、地域の方とのつながりが増えていきました。

地域の民生委員が来店し、お茶をしながら普段の活動や地域の課題について話してくれたこともありました。その方の話をよく聞きながら、私たちにできること、私たちにしかできないことを改めて考えることができました。

地域の会合や勉強会の場所として、かけカフェを使っていただけるようにもなってきており、地域や自治会、公共施設のケアプラザの方々からの信頼を少しずつ積み重ねています。常に感謝の気持ちを忘れずに、活動を継続していきたいと思います。

課題と解決方策

スタッフやボランティア間のコミュニケーションが十分ではなかったことが、運営面での課題です。日々を乗り越えることに精一杯になってしまい、活動を吟味したり振り返ったりする時間を確保できませんでした。

どうやって持続可能な運営を実現していくのかも、課題として残りました。日々の営業やイベントもなかなか集客が難しく、経営状態は悪化していきました。今後は協賛を募りながらも、自分たちの力で維持していけるよう、メニューやカフェ環境の改善、広報戦略など集客力の向上に努力していく決意です。

地域の勉強会に利用されるなど、親しまれるように

地域の多様なニーズにどのように応えていけるか、コミュニティカフェとして果たすべき役割は大きいと感じています。月1回は必ずスタッフとボランティアで集まり、ミーティングの時間を持ちます。さらに地域との関わりを密にして、共に地域の課題を考えていけるパートナーになっていきたいと考えています。

今後の予定

近隣の小学校から、コミュニティカフェ「かけカフェ」で学習支援ができないか相談がありました。学内だけで子どもたちの学習を保障していくことが難しくなっている現状で、今後はコミュニティカフェを活用して小学生の学習を支援する予定です。地域ボランティアと共に支えながら、より地域と密接に関わっていきたいと思っています。

またイベントを増やしたり、アルバイトの若者を他のカフェで研修させたり、地域の企業との関わりを増やしたりして、新たな可能性を生み出し続けていきたいと思います。

一般社団法人かけはし

2021年4月設立、同年5月法人化／メンバー数：12人／代表者：廣瀬 貴樹（ひろせ・たかき）
●〒245-0018　横浜市泉区上飯田町1019-4
☎090-2252-1080　info@kakehashi.link
kakehashi.link/　facebook.com/kakehashi.yokohama

私たちは、子どもたちや若者が安心しながら、自分自身を信じる力と自分の可能性を切り拓く力を育むことを目的として、居場所の整備・維持活動に取り組んでいます。